



# 青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323  
URL <http://www.tonyamachi.com> E-mail [info@tonyamachi.com](mailto:info@tonyamachi.com) 発行/平成29年1月1日



現在の組合員数140社 (平成29年1月1日時点)

創立時の組合員数42社 (昭和42年10月23日時点)

新年明けましておめでとうございます。



理事長

西 秀 記

昨年の国内経済は、経済再生、デフレ脱却に向けた進捗がみられ、企業活動の回復により雇用・所得環境が改善されました。有効求人倍率も全国平均で1.4倍を超え25年ぶりの高水準となり、史上初めて全都道府県で1倍を超えました。世界的に見ると、アメリカ大統領選でトランプ氏が勝利、イギリスのEU離脱が国民投票で決定、中東の地政学的なリスクの高まり、韓国大統領の進退問題など、日本経済に多大な影響を及ぼす要因が多数ありますが、現在の好循環が堅持されることを期待します。

問屋町の昨年の動きでは、5社の撤退がありました。新規加入がそれを上回る7社あったほか、既存組合員の規模拡張や社屋建替えなどにより、卸団地の活性化やリニューアルが一層進みました。

また、昨年の暮れには「問屋町内交通死亡事故ゼロ7千日」を達成することができ、日頃より組合及び組合員各位の交通安全に対する指導が徹底された成果だと思っております。

この他、3月には青森商工会議所と共催で「民間から地方創生を考えるシンポジウム」を開催し、「オール青森」を実現する流通機能向上のためのマスタープラン」を報告いたしました。現在は、当プランの具体化に向けた検討段階に入っております。

健康事業では「問屋町地区健康診断」をスタートさせ、一般市民対象の健康診断を問屋町会館で実施したほか、「問屋町健やか隊員育成研修」の開催や「問屋町健やかLetter」の発刊等、短命県返上に寄与すべく積極的に活動を続けました。環境事業では、安心・安全なまちづくり実現に向け、防犯機能向上のための防犯カメラを設置したほか、青森市に道路照明の早期LED化等を要望しました。

さて、今年には組合創立50周年を迎える記念すべき年となります。50周年を契機に、当卸団地の信頼度向上や他地域との差別化を図るべく、これまで以上に様々な事業をインターネットやパブリシティ等を活用しながら広く周知し、組合及び組合員を含めた卸団地全体の企業価値を向上させるため、「問屋町ブランド」確立を目指します。

また、青森市経済発展に向け、新青森市長の誕生により県と市の連携が更に強固なることを期待すると共に、青森市の再生が一刻も早く実現されるよう組合としても積極的に協力して参ります。

新しい年が、自然災害がなく、組合員の皆様が景気回復を実感でき、更なる発展に繋がるよう心からお祈りいたします。

**問屋町ビジネススクール  
29年度カリキュラム承認  
第7回理事会**

12月20日(火)に第9回理事会が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また、事務局からは過去最多の受診者数となったインフルエンザ予防接種や組合員跡地再整備計画の変更について報告を行った。

主な案件審議は次のとおり。  
案件一・問屋町ビジネススクール運営委員会からの意見について  
案件二・組合施設の賃貸及び新規組合員加入承認について  
案件三・組合員跡地買取資金の借換について

**八戸卸センター経営研究会  
との交流会など実施**

組合員の若手経営者や後継者らで組織される青森問屋町経営同友会(以降、同友会)が、12月8日(木)に八戸卸センター経営研究会(以降、経営研究会)との交流会をホテル青森で開いた。今回が初開催となる交流会には、同友会から7名、経営研究会からは6名が参加した。

経営研究会は、(協)八戸総合卸センター組合員の地元企業経営者らで構成。交流会は、両会会員が意見交換を通じて相互研鑽を図ることを目的に八戸側からの呼びかけで実現。経営研究会の鴨沢会長、

**高齢者雇用等に関する  
助成制度などについて学ぶ  
組合員昼食会**

12月21日(水)に、問屋町会館で組合員昼食会が開催された。

はじめに、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構より、高齢者雇用安定助成金及び65歳超雇用推進助成金等について紹介がなされた。

高齢者雇用の環境の整備を目的として「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の一部が改正され、平成25年4月から施行されている。事業主には定年の引上げ、継続雇用制度の導入等による高齢者の安定した雇用の確保が求められ、制度導入に対する助成制度が設けられている。

同友会の西中会長の挨拶に続いて勉強会が行われ、同友会事務局を担当する組合の小田切業務課長が「オール青森!」を実現する流通機能向上のためのマスタープランについて説明した。その後の懇親会では、全員が自己紹介を行うなど親睦を深めた。



経営研究会との交流会



忘年会

- 忘年会では、新会員である他27名が参加した。
- 12月2日(金)には、年末
  - 1つ目は、50歳以上の有期契約労働者を無期雇用労働者へ転換した場合、対象労働者1人につき50万円が支給される。
  - 2つ目は、高齢者の活用促進のための雇用環境整備措置を実施した場合、対象経費の3分の2を支給。ただし、対象者(60歳以上の雇用保険被保険者)数×20万円が上限。3つ目が、定年の引き上げ等の措置を実施した事業主に対して、実施内容に応じて60万円から120万円が助成される。ただし、いずれの場合も、雇用保険への加入が必須要件となり、2、3つ目は1年以上継続雇用されている60歳以上の対象者が1人以上いなければ助成対象とはならない。続いて、組合員のK・フロスピ(株)の小枝社長が、問屋町恒例の忘年会を開催し、会員27名が参加した。
  - 忘年会では、新会員であるK・フロスピ(株)の小枝社長が、同社が問屋町で運営するボリングジムについて紹介。その後は懇談に入り、体内時計で50秒を正しく計測するゲームを実施するなど、年の瀬の楽しいひと時を過ごした。

11月に新規オープンした青森初の本格的ボリングジムについて紹介した。最後に事務局から、防犯カメラの運用開始や蛍光灯共同回収の一時終了、パソコンリサイクル共同回収の実施頻度の変更について説明した。また、問屋町健やかLet the rの紹介も行った。



組合員説明会

**業務報告**

……主要事項……

- 12月
  - 2日▽問屋町経営同友会忘年会
  - 5日▽全国卸商業団地連絡協議会トップセミナー
  - 6日▽青森中金会講演会・懇親会
  - 7日▽青森商工会議所経営計画作成支援セミナー
  - 8日▽国内経済視察会反省会
  - 8日▽青森県中小企業団体中央会理事会
  - 9日▽問屋町経営同友会・八戸卸センター経営研究会交流会
  - 9日▽みち銀問屋町支店グループクラブ総会・忘年会
  - 13日▽あおもりコンピュータ・カレッジ運営委員会
  - 15日▽全国卸商業団地連絡協議会
- 1日▽ビジネスセミナー研修(報告・連絡・相談編)
- 6日▽給与実務の基礎の基礎(税金編)①
- 8日▽給与実務の基礎の基礎(税金編)②
- 19日▽青森市中心市街地活性化協議会まちづくり講演会
- 20日▽第1回問屋町ビジネススクール運営委員会
- 21日▽組合員昼食会
- 22日▽全国卸商業団地連絡協議会事務局次世代の会

**問屋町たんしん**  
▽平成29年問屋町新年合同厄払い  
①日時  
平成29年2月6日(月)  
午後零時15分～午後1時  
②会場 問屋町会館  
③募集人数 30名  
④参加料 2,000円  
(記念会中・お札・お守り含む)

②問屋町若手従業員親睦交流会  
日時  
平成29年2月17日(金)  
19～21時  
場所 ホテル青森  
参加料 2,100円(税込)  
定員 40名  
お申込み・お問い合わせは、卸センター業務部(☎73814711)まで

**謹賀新年**

旧年中は格別のお引き立てをたまわり厚くお礼申しあげます。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

**青森問屋町配送(株)**

代表取締役 西 秀記  
常務取締役 赤坂 晃

**北日本流通ヴァン(株)**

代表取締役 橋本 昭一  
取締役副社長 西 秀記  
専務取締役 藤本 和夫  
常務取締役 森山 慶一

# 新年のメッセー

(協)青森総合卸センター事務局職員



専務理事  
藤本和夫

今年のメッセーは堅くいきま

す。今年は何といっても当組合創立50周年の年です。私が卸センターにお世話になってから足かけ37年になります。先達が築き上げたこの間屋町を、役員一丸となって現在までのところは何とかデフエンスできてきたのではと思っています。



理事・事務局長  
赤坂晃

この創立50周年をターニングポイントとして、これまでの卸商業団地イメージから、広汎な商業の集積地としての魅力ある「ビジネスパーク」に変貌できればと思っています。

そのために元気のある「問屋町ブランド戦略」を展開したいと思っています。山菜採りが好きな私ですが、昨年の熊出没報道に危機を感じ、初めて熊よけの鈴を購入しました。効くかどうかは不明であるが、今年もワクワクしながら、熊と出くわさないよう神に祈り、山に入りたいと思っています。本年も組合員皆様ますますご発展出来る年になるよう心から祈りたいと思います。



総務課長  
張山歌子

あけましておめでとうございま

す。昨年は青森県の「レッツ・スタート・ウォーキング事業」に参加し、約2ヶ月間、万歩計をつけて歩きました。毎日、犬の散歩をしながら1日1万歩、歩こうと思いましたがなかなか達成することはできませんでした。健康のため、歩くという意識は向上したと思います。今年も、歩くことを継続して健康寿命が延びるよう頑張ります。目標は80歳まで歩いてゴルフができること!?



業務課長  
小田切勇治

昨年は真冬に足を骨折し、不覚

にも皆様に笑いのネタを提供いたしました。やっぱり健康って大事ですね。さて今年も、「難しいことこそ簡単に」。シンプルさとスピード感を大切に、創立50周年を頑張ります!



業務課長代理  
西田一実

40歳を過ぎても惑ってばかりで、毎日が迷いと試行錯誤の連続です。



総務部主査  
五十嵐敦

気がつけば今年で四捨五入するとアラフォーの仲間入りになる歳となります。

気持ちと見た目?はいつまでも20代のまま、今まで以上に健康に気をつけながら、今年も一年頑張りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします!



業務部主査  
佐々木秀家

昨年はハロウィンパーティーがなかったのですが、楽しみにしていたとの声が意外と多くびっくりしました。皆さん変身願望があるのでしょうか? 新年はもっと楽しい企画を検討していければと思います。



業務部書記  
春山心仁

2匹の猫を飼っている私の実家では、昨年子猫が1匹加わりました。これまで10余年暮らしてきた2匹とは違い、エネルギーシユで若さを感じます。

私も唯一の取柄である若さを武器に、今年も邁進したいと思っています。



総務部主査  
成田賀子

Facebook始めました。昨年は#国内経済視察会9年ぶりに同行、#デイズニーへ行った、#愛犬旅立ち体重増加。今年も#無農薬家庭菜園継続、#犬を飼い毎日散歩し体重減少(したい)、#夫が年男↓嫁鶏随鶏(かけいずいけい、妻が夫に従うこと、妻が夫のもとで安んじていることのとえ)で頑張ります。



総務部主査  
田中静香

2016年は「歩」の一年でした。夏はポ○モンを集めるため、毎日スマホ片手に歩き続け、秋は県のウォーキング事業に参加し、万歩計をポケットに、徒歩通勤を心掛けました。・・が、寒さには敵いませんでした。今年も外出したくなる「何か」にハマれるといいです。



総務部主事  
鎌田綾野

昨年は周りでの結婚式や出産、地元板柳町のギネス記録達成、念願のマイハウス等お祝い事の多い年でした。今年も父親が還暦になるという事で函館旅行を計画しており、「家族全員で旅行」の夢を叶えてあげたいと思っています。



郵便局窓口担当  
鶴谷優子

簡易郵便局担当になり、あつという間に1年半が経ちました。いろいろと改正もあり覚えるのがやつとですが、頼りにされる存在になれるよう日々努力して参ります。



問屋町ストアパート  
成田あすか

昨年も皆様に問屋町ストアをご利用していただき誠にありがとうございました。今年も珍しい商品や特価商品を提供できるよう品揃えを頑張りますので、問屋町ストアをよろしく願っています。



問屋町ストアパート  
外崎由佳

昨年もたくさんのお客様にご来店いただきありがとうございます。今年も旬の野菜やスイーツと共に皆様のご来店お待ちしております。



青森問屋町配送(株)業務部長  
佐藤博善

昨年は、組合員の皆様をはじめ多くの方々に大変お世話になりました。誠にありがとうございました。私自身、忙しい日々を過ごすことが出来、もう1年経つのか?と思うくらい、本当に早いです。(歳なんでしょう) また、昨年は目立った事故もなく、本年も社員全員で無事故・無違反を目標にがんばっていきます。

# 平成29年（2017年）は 組合創立50周年

## 問屋町ブランド戦略で、問屋町ビジネスパーク構想の実現へ

**創立50周年  
歴史と伝統を受け継ぐ**

当組合は、平成29年10月23日に組合創立50周年を迎える。昭和42年に42社の組合員により設立された協同組合は、50年の時を経て、組合員・関連企業あわせて約150社が集う青森市最大の流通拠点にまで成長した。

しかし、ここに至るまでの道のりは決して平たんではなかった。ドルショックやオイルショックに代表される経済危機、バブル景気崩壊による長期に渡る景気低迷、東日本大震災をはじめとする自然災害など、数多くの困難に見舞われてきた。その都度、組合の基本理念である「相互扶助」の精神のもと一致団結し、これを克服して卸団地を存続させてきた。

それらから生まれた歴史や信用、組合員や関係機関との連携力などは組合の貴重な財産であり、受け継ぐべき資産である。問屋町ブランド戦略



の重要なバックボーンでもあることから、この50周年の節目に改めて再認識し、先達への感謝とともに記念誌等につかりと継承していく。

**問屋町ブランド戦略  
問屋町ビジネスパークを目指して**

問屋町ブランド戦略は、平成26年2月に構想の承認を受けスタート。卸団地の信頼度向上や他地域との差別化、間接的な跡地対策など、卸団地全体の企業価値を向上させることを目的としている。

「敷地に価値無し、エリアに価値あり」とはオガールの岡崎氏の名言だが、問屋町というエリアに価値を付与することが問屋町ブランド戦略である。従来の経済的価値を創出する事業に加えて、社会的価値や文化的価値も付与する事業戦略である。

これまでの問屋町は、高度化事業による実利的なインフラ整備を中心とした業務地区を目指してきた。近年は、「人

くりへシフトするため「街並・景観整備」にも取組み、そこから産み出される経済的価値を重要視してきた。

企業の社会的責任（CSR Corporate Social Responsibility）に力点をおいた企業の社会的価値の創出が重視される現在、この団地の社会的価値を創造する事業が「環境事業」や「健康事業」「安心・安全な街づくり」などである。またこの社会的価値に加えて、団地外の企業人・市民を誘引する装置が組合の文化的価値の創造事業である。この事業としては「問屋町ビジネススクール」や「各種のカルチャー事業」「景観のV.I.ビジュアル・アイデンティティ」などである。

経済・社会・文化的な価値をエリアマネジメントにより融合させ、様々なステークホルダーと連携し、より高機能な街への変換することが問屋町ビジネスパークへの道であり、50周年をその大きな契機としたい。

**問屋町ビジネススクール  
累計受講者3千人を突破**

「地域企業の人を育てる」をテーマにスタートした問屋町ビジネススクール。開校から5年を経過し、約200講座を開催し、青森市内外から3千人もの方々に受講いただくことができた。

28年度からは、全国中小企業団体中央会の支援事業を活用して策定した「オール青森！を実現する流通機能向上のためのマスタープラン」の提言に基づき、流通講座を新設したほか、メンタルヘルス

やコミュニケーション、営業に関するグループコンサルなどを実施した。29年度は、流通講座をより一層充実させるとともに、要望があった決算書の読み方講座や総務の仕事体系的に学べる講座なども新規に開催し、地域企業の人づくりを後押ししていく。



初開催の流通講座

**防犯カメラの設置で  
より安心・安全な問屋町へ**

28年度は、安心・安全な街づくりにとって、大きなターニングポイントとなった。その最も大きな成果が防犯カメラの設置である。防犯カメラについては26年度から調査研究に着手していたが、この度、団地内に計7台の防犯カメラを設置し、28年11月から運用を開始。これにより、事件発生時の事後検証への活用に加え、犯罪抑止力の向上にも大きく寄与することが期待される。また、1台は組合員限定でリアルタイム映像を視聴することを可能とし、冬期間の積雪状況の確認等にも活かしてもらおう。

29年度は、団地内の照明不足を解消するためLED防犯灯の増設を検討するとともに、

交通死亡事故ゼロ運動にも継続して取り組む。



会館前に設置された防犯カメラ

**4年目を迎える健康事業  
ヘルスリテラシーを高め命運返上へ**

平成26年度からスタートした健康事業は4年目を迎える。28年度には、青森県医師会健やか力推進センターの協力のもと問屋町健やか隊員育成研修により職場における健康づくりのリーダーを育成。加えて「問屋町健やかLetter」を毎月発行し、健康に関心を持つきっかけ作りを行いました。

29年度はよりヘルスリテラシーを高められるよう、無関心から関心、準備、実行へとステージアップできるような情報をできるだけ多く、そしてわかりやすく提供できるように取り組みを進める。



健やか隊員育成研修